



先週の始業式では、探究部長の永田先生より、本校が掲げている「探究的な学びの充実」に基づく取組について説明がありました。「探究する」とはどういうことなのか、現在どのような活動を進めているか、今後どんなことに挑戦していきたいか、などを全校生徒と共有。また、求道探究系の生徒から、京都市立堀川高等学校との連携活動について報告がありました。今回は、探究特集です。今年度に入ってから「挑戦」について、お伝えします。



【高校／求道探究係】京都市立堀川高等学校「探究道場」視察（7月4日）

- 1 場所 京都市立堀川高等学校（京都市中京区東堀川通錦小路上ル四坊堀川町622-2）
- 2 内容 堀川高校生による中学生支援「探究道場」を視察する。
- 3 人員 教員2人、生徒4人（求道探究係 高3生3人、高2生1人）



探究道場

アイスブレイク

前半理論

探究スタート

終了宣言

後半理論

中学生振り返り

「師範」と呼ばれる堀川高校生が、今日行う探究活動について説明

堀川高校生のファシリテーターを中心に、中学生のアイデアを想起させ、それを実際に実行に移す後押し

その後、アディショナル・タイム

堀川高校生の師範が再度登場。今回の探究活動の理屈を中学生に分かりやすく説明

堀川高校生との交流会

連携校の生徒と堀川高校生との交流会を実施。帯同していた渉外担当生徒から探究道場について根掘り葉掘り質問をして、情報収集。市沼生徒たちはここでも、積極的に質問してメモを取っていました。渉外担当生徒たちもアットホームに対応してくれて、最終的に生徒たち同士で連絡先交換をするほど仲良くなりました。



【参加教員所感】弾丸ツアーではありましたが、堀川高校に滞在した時間は充実したものでした。市沼生徒たちが常に前のめりで行動していたことも良かったです。堀川高校生のすべて主体的に活動している姿は素晴らしく、コミュニケーションに際しても、自信をもって堂々と話ができていました。

【高校／求道探究係】京都市立堀川高等学校主催「探究道場連携校サミット」（8月1、2日）

（参加した3人〈高2のNさん、Kさんと、高1のOさん〉からの報告全文）



本日、私たちが参加した「探究道場連携校サミット」での貴重な経験と、そこから得た学び、そして今後の私たちの取り組みについて発表します。

まず「堀川高校探究道場」について説明します。

「探究道場」は、堀川高校と全国17の連携校が中学生向けに行っている探究活動の体験イベントです。堀川高校では年2回、土曜日に開催されています。現代社会の困難な問題を解決する「探究する力」を全国に広めながら、他者と協力し、自分で課題を見つけて、解決できる人を育てることを目指しています。また、高校生スタッフが中学生に探究を楽しく行う方法を伝えるだけでなく、参加した中学生が将来高校生になったときの探究の理解や経験を深めること、そして活動を通じて高校生スタッフ自身も探究を行えるようになることという、たくさんの目的と価値があります。

そして私たちは、全国で堀川高校の探究道場を実践している17の高校から約100人の高校生が集まる「探究道場連携校サミット」に参加してきました。

1日目は、まず、堀川高校で、堀川高校の生徒から、探究講座を受けました。探究を行う方法や、組織の目的をそこで学びました。その後、日本を代表する精密機器メーカーである「島津製作所」へフィールドワークへ行きました。ショールーム「サイエンスプラザ」への見学と島津製作所の広報部長さんからお話をいただきました。その後、他校のメンバーと混合のグループを組み、フィールドワークで得た気づきをもとに実際の探究活動を行いました。さらに、理想と現状について話し合いました。

2日目は、「本サミット」が開催されました。ここでは、それぞれの学校における「ワークショップを独自開催するにはどうすればよいか」という議題で、活発な議論を交わしました。「ワークショップ」とは高校生が中学生に探究活動をたのしく行う方法を伝えることを目的とした探究活動を広める手段です。各校の高校生一人一人が議題に対して自分の考えや疑問を持ちながら、議論に参加していました。このサミットを通じて、私たちは大きな刺激と学びを得ました。このスライドの写真は2日目の本サミットの様子です。（次ページにつづく）

サミットで行ったこと 二日目

議題

「ワークショップの独自開催するにはどうしたらよいか」



特に印象的だったのは、他校の高校生たちの姿勢です。誰もが自分の意見を臆することなく、素直に言葉にしていました。そして何より、その喋り方が非常に大人らしく、論理的だったことに私たちは圧倒され、大きな刺激を受けました。

そんな彼らと議論を重ねる中で、私たちは「現場を見ることで、初めて生きた問いが生まれる」ということ、そして「多様な視点に触れることで、自分一人では絶対に到達できなかった深いアイデアへたどり着ける」ということを身をもって学びました。お互いの意見を尊重し、素直にぶつけ合える安心な空気感があったからこそ、質の高い探究ができたのだと確信しています。

これは1日目の立食交流会の様子です。ここで連携校の高校生達と親睦を深めました。

私たちが今の市沼の探究活動の課題だと思う点は、「生徒の中で探究に対するモチベーションや考えが意欲的でない人もいること」だと考えています。その為、私たちは「生徒が探究とはなにかを理解し、探究を楽しむ」ことを目的とし、本校のこれからの取り組みに活かしたいことが2点あります。

1点目は、「誰もが素直に意見を言える空気づくり」です。サミットの時のように、失敗を恐れず、お互いをリスペクトしながら対話ができる雰囲気、本校の探究活動でも作っていきたいです。

2点目は、「伝える力を磨くこと」です。サミットで出会った仲間たちのように、自分の考えを大人らしく、論理的に相手に伝える意識を、私たち自身がまず日常から実践していきます。

そして、これらの学びを形にする最初の大きなステップとして、9月26日に、堀川高校から学んだ探究道場を本校のオープンスクールにて開催します。当日は、私たちが堀川高校で体験した探究を、小中学生にも体感してもらえるようなワークショップを実施します。サミットに参加したメンバーが各グループのファシリテーターとなり、私たちが京都で受けたあの刺激を、そして「素直に意見を言い合える楽しさ」を、参加者全員に届けるために全力で取り組みます。

9月26日のイベントを成功させ、ここから本校の探究活動を盛り上げていきたいと考えています。

【高校】浮島中学校「うきラボ」支援（8月28日）

小中高生が互いの学びを支え合い、ともに探究する資質・能力を育んでいけるよう、本校は「伴走を通して、他者の探究を支援する力を身につける」「自らの探究を客観的に振り返り、問いや考察を深める」ことを目的として、小中学校への探究支援を模索していきます。まずはキックオフとして、沼津市立浮島中学校「うきラボ」で2、3年生が課題を設定する場面に訪問させていただきました。

AM ファシリテーション研修（講師：NPO法人しずおか共育ネット）

- 伴走のためのコミュニケーションスキル
- 「聴く」「問い掛け」ペアワーク
- 場をデザインする作戦会議



オープン質問とクローズド質問を使い分けると相手が答えやすくなることが印象に残りました。（Oさん）

一番印象に残ったことは、答えを教えるのではなく、生徒が自分で答えを出せるようにするための声掛けや質問をすることが大切だということです。また、話を聞くだけでなく、実際にやってみるという研修の形が良かったです。（Kさん）

他学年や先生方、学校外の大人とも関わることができたのがよかった。話を展開させていくにはオープン・クエスチョンがよいと聞いていたから、どれほどオープン・クエスチョンができるか？作り出せるか？を考えなくてはいけないのだと思っていたが、相手の様子次第でクローズド・クエスチョンを用いていくことが意外で印象に残った。座学だけでなくすぐ実践できたことがよかった。（Sさん）

中学生が何に興味を持つのか、疑問を持っていることを聞いて、テーマに繋がられるようにしたり、具体例を出して簡単なことでいいんだよ、と声をかけてできるだけ探究へのハードルを下げるように工夫した。（Kさん）

一人一人がしっかりとテーマを考えていて自分より論理的に探究について考えていた人がいた。（Nさん）

自分たちのアイデアを実現させるために具体的に考えていて、意欲があったので感心した。（Kさん）

みんなで考えて悩んでいる姿が素晴らしいと思いました。終わることとか成功することが正しいとは思わないのでもいいと思う。僕のクラスは誰一人取り残さない雰囲気があった。（Hさん）

高校生よりも自由な考え方・捉え方で探究をしていてすごいと思った。沈黙がなく、たくさん話してくれてすすめやすかった。（Sさん）

学んだことを話し合いや人との交流の場面で発揮できるようにしたい。（Kさん）

探究はもちろんさまざまな話し合いをする機会が今後あると思うのでそういったところで活かして深い話し合いにしたい。（Oさん）

1日とは思えない程の成長がありました。研修したことをすぐに実践することで、新たな気付きや成長があって良かったです。（Kさん）

PM いざ、浮島中学校へ！

- （全体）進行説明＆高校生より探究発表



- （グループ）アイスブレイク・自己紹介
中学生より探究の進捗状況を報告
テーマ別対話→壁打ちタイム

